

ターは2,191カ所であった。折しも平成の大合併が実施されている渦中であり、合併後の複数の保健センターでまとめて1通にして回答してきた保健センターがあり、その市町村については対象を1カ所に訂正し、最終対象数を2,120カ所とした。

回答は1,165カ所から得られ、回答率は55.0%であった。

1) 回答した保健センターの状況

(1) 設置主体

<表1> 設置主体

	保健センター数	%
特別区・政令市	128	11.0
市	473	40.6
町	480	41.2
村	75	6.4
不明	9	0.8
合計	1165	100

保健センターを設置しているのは、市が最も多く473カ所(40.6%)であった(表1)。平成16年度の状況に基づいて調査を行ったが、合併により設置主体が町または村から市または町に変わっているところが多かった。

回答の中には、平成16年度の状況を答えているところが見られたが、把握できる限り現在の状況に変更して集計した。

また、特別区・政令市についても政令市であっても市と回答しているところがあったが、平成17年の状況から訂正し集計を行った。

以下、保健センターの実施状況を分析するための市町村ごとの分析は、設置主体が不明の9カ所を除いた1156カ所の保健センターのデータを用いた。

(2) 管内人口

<表2> 管内人口

	保健センター数	%
5千人以下	115	9.9
5千1人～1万人	206	17.7
1万1人～5万人	479	41.1
5万1人～10万人	159	13.6
10万1人以上	206	17.7
合計	1165	100

管内人口は、平成16年10月時点について回答を求めた。管内人口を保健所の管内人口と誤解しているところがあったが、把握できる限り保健センターが管轄している人口に訂正を行った。

また、人口を記入していないところについては、保健センター名から平成15年の人口を求め、調査者が記入を行った。

人口は、最小195人から最大151万9878人(平均5万7791.4±9万4302.3)で、1万1人から5万人までの保健センターが479カ所(41.1%)と最も多かった(表2)。

(3) 出生数

<表3> 年間出生数

	保健センター数	%
30人以下	111	9.5
31人～50人	105	9.0
51人～100人	195	16.7
101人～300人	245	21.0
301人以上	439	37.7
不明	70	6.0
合計	1165	100

年間出生数は、平成16年のものを求めたが、まだ公表されていないとして平成15年の出生数を記入しているところからみられたことから、平成16年又は15年の出生数とした。記入していないところについては、把握できる限り平成15年の出生数を求め調査者が記入を行った。

出生数は、最小1人から最大1万2751人(平均520.6±904.7)で、最も多いのは301人以上出生の

439カ所（37.7%）であった（表3）。人口と出生数とを比較すると、平成16年の人口千対出生率は全国では8.8であるが、人口5千人以下で出生数が50人以上のところや、また人口1万1人から5万人以下で出生数が31人から50人のところがあった（表4）。これは先に述べたように平成の合併で記入する数値に混乱が生じた結果であると考えられた。

<表4>人口と出生数（不明除く）

	5千人以下	～1万人	～5万人	～10万人	10万1人以上	合計
30人以下	96(87.3)	15(7.8)	-	-	-	111(10.1)
31人～50人	13(11.8)	87(45.3)	5(1.1)	-	-	105(9.6)
51人～100人	1(0.9)	88(45.8)	106(23.8)	-	-	195(17.8)
101人～300人	-	2(1.0)	243(54.5)	-	-	245(22.4)
301人以上	-	-	92(20.6)	151(100.0)	196(100.0)	439(40.1)
合計	110(100.0)	192(100.0)	446(100.0)	151(100.0)	196(100.0)	1095(100.0)

（4）保健師活動

母子保健業務を行っている保健師数をたずねたが、担当者数ではなく乳幼児健診を行っている保健師数を回答しているところがみられ、把握できた場合には調査者が訂正を行った。担当保健師数は、最小1人から最大85人（平均5.1±6.2）で、最も多いのは4人から10人で474カ所（40.7%）であった（表5）。

保健師の活動をどのように行っているかたずねたところ、地区分担と業務分担を併用しているところが827カ所（71.0%）ともっとも多く、ついで業務分担183カ所（15.7%）、地区担当80カ所（6.9%）であった（表6）。

保健センター設置主体と保健師活動をみると、全体に比べて特別区・政令市では有意（ $p < 0.01$ ）に地区担当が24.6%と多く業務分担が少なく、同様に市も業務分担が少なく、町では業務分担が多く、村では業務分担とその他が多かった（表7）。町や村で「その他」と答えているところでは、欄外に「保健師が一人しかいないので」と記入しているところがあった。人口が多いところでは、業務分担では保健師の負担が大きいのもかもしれない。反対に保健サービスが多様化してきていることから、人口が少ないところでも業務分担でないとサービスをこなせないことが考えられる。

研究者が平成14年に行った厚生労働科学研究による調査では、地区分担と業務分担の併用が特別区・政令市保健センターは54.1%、市町村保健センターは73.8%で、業務分担はそれぞれ4.6%、18.6%、地区担当は40.4%、4.4%であった³⁾。今回の調査の市、町及び村を合算して「その他市町村」として、平成14年調査と比較すると、特別区・政令市では有意（ $p < 0.01$ ）に地区担当と業務分担が増加し地区担当が減少していた。特別区・政令市では都道府県の保健所業務を行っているところが多く、専門的サービスを提供するためと考えられた。

<表5> 母子保健業務を行っている保健師数

	市町村数	%
1人	171	14.7
2人～3人	401	34.4
4人～10人	474	40.7
11人～20人	69	5.9
21人以上	20	1.7
不明	30	2.6
合計	1165	100

<表6> 保健師の活動

	市町村数	%
地区担当と業務分担	827	71.0
業務分担	183	15.7
地区担当	80	6.9
その他	39	3.3
不明	36	3.1
合計	1165	100

<表7> 保健センター設置自治体と業務分担等（不明除く）

	特別区・政令市**	市**	町**	村**	合計
地区担当と業務分担	94(74.6)	359(78.4)	326(70.6)	42(56.0)	821(73.2)
業務分担	1(0.8)	56(12.2)	107(23.2)	19(25.3)	183(16.3)
地区担当	31(24.6)	32(7.0)	15(3.2)	2(2.7)	80(7.1)
その他	-	11(2.4)	14(3.0)	12(16.0)	37(3.3)
合計	126(100.0)	458(100.0)	462(100.0)	75(100.0)	1121(100.0)

** p < 0.01

<表8> 平成14年と17年の業務分担等の比較

	特別区・政令市**		その他市町村	
	H14年	H17年	H14年	H17年
地区担当と業務分担	59(54.1)	94(74.6)	903(73.8)	727(73.1)
業務分担	5(4.6)	1(0.8)	228(18.6)	182(18.3)
地区担当	44(40.4)	31(24.6)	54(4.4)	49(4.9)
その他	1(0.9)	-	37(3.0)	37(3.7)
合計	109(100.0)	126(100.0)	1223(100.0)	995(100.0)

** p < 0.01

2) 両（母）親教室について

(1) 母親教室の実施状況

① 実施の有無

実施の有無については、同一名の教室で同一コースの一部分を母親教室や両親教室として回答しているところがあったが、実施回数の多い教室にカウントして集計を行った。平成16年度に母親が主体の教室（以下、「母親教室」とする。）は、1165カ所の保健センターのうち653カ所（56.1%）で実施されていたが512カ所（43.9%）は未実施であった。市町村別に実施状況をみると、特別区・政令市で実施状況が76.6%と有意（p < 0.01）に高く、同様に市は63.2%も高く、町は47.7%、村は30.7%と有意（p < 0.01）に低い状況であった（表9）。

人口の少ない村では、「対象者がいなかったので実施できなかった」「要望により実施する」としているところもあった。また、近隣自治体が共同で実施しているところ、病院に委託して実施しているところなどがあった。

<表9>市町村別母親教室の実施状況（不明除く）

	特別区・政令市**	市**	町**	村**	合計
実施	98(76.6)	299(63.2)	229(47.7)	23(30.7)	649(56.1)
未実施	30(23.4)	174(36.8)	251(52.3)	52(69.3)	507(43.9)
合計	128(100.0)	473(100.0)	480(100.0)	75(100.0)	1156(100.0)

** p < 0.01

②母親教室の名称

母親教室の名称は「母親教室」「母親学級」「マタニティ教室」が多く、両親を対象にした「両親教室」や「パパママ教室」などの名称でも、母親が主体であるとして回答してところもあった。人口の少ないところでは、歯科検診を主体とした「妊婦歯科教室」や調理実習を主体とした「クッキング教室」としていたり、母子健康手帳発行を予約で行い母親教室と一緒に開催したりしているところも見られた。また、育児交流会と同時開催で「育児交流会」「妊婦体操」等の名称で実施しているところも見られた。母親教室やマタニティ教室などのよくつけられる名称を除いた教室名の一部を表10に示す。参加しやすく、教室の内容を的確に表すような名称をつけている様子が見られる。

茅ヶ崎市保健センターでは、「働くママ」、「35歳からの子育て教室」、「若いママの子育て教室」、「マタニティークッキング」、「母親教室」、「父親教室」の6種類のコースを実施していた。

<表10>母親教室やマタニティー教室等以外の母親教室の名称の例

母親教室の名称（保健センター設置主体）	母親教室の名称（保健センター設置主体）
こうのとりセミナー（町）	ママピア教室（町）
まんまるクラブ（町）	まみーくらす（町）
ぺんぎんクラブ（市）	フレンドリーコース・スタディーコース（市）
すくすくクラブ（町）	これからパパママれっすん（市）
素敵なママになる集い（町）	エンジョイマタニティ講座（市）
いい歯歯（母）教室（町）	はぐくみ教室（市）
うぶごえ学級（市）	ハッピーベビークラブ（市）
かんがるーママ（市）	ニューパパ&ママのためのたまごくらす（市）
ほのぼのファミリーセミナー（町）	マミークラス（市）
ハッピーマタニティー教室（町）	しあわせ学級（市）
ゆりかご教室（市）	フレッシュミセス教室（市）
あひるの教室（町）	うぶ声学級（市）
マタニティークッキング・おっぱい教室（市）	フレッシュマタニティ教室（特別区・政令市）
ベア教室（町）	リトルママ教室（市）
カンガルークラブ（町）	マミービクス（市）
マミー&ダディクラス（町）	ようこそ赤ちゃん学級（町）
たんぼぼくらぶ（市）	わくわくクラス（市）
ファミリー教室（市）	ふれママルーム（市）
いきいきママ教室（市）	わいわいマタニティ教室（市）
いのちはぐくみ学級（市）	妊婦さん大集合！！（町）
すくすくのびのび教室（町）	すこやかママ教室（市）
かんがるーくらぶ（町）	びよびよひろば（町）
ひまわりクラス（市）	おめでた！！（町）
たまごスクール（町）	こうのとり学級（市）
明日の親学級（町）	ミニママ教室（市）
わくわくママクラブ（市）	子育て広場（町）
うぶごえ教室（市）	たまご学級（市）
すくすくたまご教室（町）	かんがるーのポケット（村）
ハロー赤ちゃん（特別区・政令市）	ハローベビー教室（市）
ひよことたまごの会（村）	プレママのひよこ教室（町）
デンタルマタニティスクール・プレママ栄養教室（市）	こんにちは赤ちゃんクラブ（市）
パパとママのたまご教室（町）	すくすくクラス（市）
フレッシュパパママ教室（市）	あこがれママ教室（市）
わくわく教室（町）	ピアママ教室、フレッシュママ教室（村）

③実施回数

母親教室の1コースあたりの回数は、最小1回から最大12回（平均2.9±1.3）で、3～5回のコースで実施している市町村が388カ所（59.4%）ともっとも多かった（表11）。年間何コース実施しているかをたずねたところ、最小1コースから最大76コース（平均5.7±5.3）で、4～7コースが313カ所（47.9%）ともっとも多かった（表12）。

地域保健・老人保健事業報告で国に報告している回数は年間開催延べ回数であるので、1コースあたりの開催回数と年間コース数から年間開催延べ回数を算出した。中には複数の教

室の回答があり、この数式では年間開催延べ回数を完全に把握できるわけではない。開催最小回数は1回、最大回数484回（平均17.4±25.7）で、11～20回が232カ所（35.5%）ともっとも多かった（表13）。

市町村別にみると、特別区・政令市では開催回数21回以上が54カ所（58.1%）ともっとも多く、市は11～20回が117カ所（40.3%）、町は6～10回が83カ所（37.9%）、村は1～5回と11～20回が8カ所（36.4%）であった（表14）。また、市町村ごとの平均開催回数は、特別区・政令市30.0回（±34.5）、市19.9回（±30.3）、町9.7回（±5.8）、村8.0回（±5.4）であり、特別区・政令市は市、町、村に比べて有意に回数が多く、市も町、村に比べて有意に多かった。

<表11> 母親教室1コースあたり回数

<表12> 母親教室年間開催コース数

<表13> 母親教室年間開催延べ回数

	保健センター数	%		保健センター数	%		保健センター数	%
1～2回	232	35.5	1～3コース	205	31.4	1～5回	83	12.7
3～5回	388	59.4	4～7コース	313	47.9	6～10回	152	23.3
6～7回	10	1.5	8～11コース	45	6.9	11～20回	232	35.5
8回以上	2	0.3	12コース以上	71	10.9	21回以上	161	24.7
不明	21	3.2	不明	19	2.9	不明	25	3.8
合計	653	100	合計	653	100	合計	653	100

<表14> 市町村別母親教室年間開催延べ回数（不明除く）

	特別区・政令市	市	町	村	合計
1～5回	2(2.2)	26(9.0)	46(21.0)	8(36.4)	82(13.1)
6～10回	11(11.8)	52(17.9)	83(37.9)	6(27.3)	152(24.4)
11～20回	26(28.0)	117(40.3)	79(36.1)	8(36.4)	230(36.9)
21回以上	54(58.1)	95(32.8)	11(5.0)	-	160(25.6)
合計	93(100.0)	290(100.0)	219(100.0)	22(100.0)	624(100.0)
平均値	30.0217	19.8819	9.7339	7.9545	17.3814
標準偏差	34.5082	30.3101	5.8225	5.3938	25.7122
最小値	2	2	1	1	1
最大値	304	484	36	20	484
t検定	∇ p < 0.001 ∇ ∇ p < 0.001 ∇ ∇ p < 0.001 ∇ ∇ p < 0.001 ∇ ∇ p < 0.05 ∇				

④参加人数

母親教室に参加した母親の実人数は、最少が1人で最大は1800人（平均98.0±144.1）、参加延べ人数は最小1人から最大6469人（平均239.9±418.0）であり、延べ人数を実人数で割った一人あたりの平均参加回数は、最小1回から最大23.7回（平均2.3±1.5）であった。

母親教室にも父親の参加が 290 カ所 (44.4%) にあり、参加実人数は最小が 1 人で最大は 369 人 (平均 17.2±37.8) であった。

また、母親や父親以外の参加者は 288 カ所 (44.1%) にあった。参加者の詳しい情報は求めなかったが、欄外に記載のあったところでは子どもや祖母などの参加が見られていた。

市町村別に母親の参加延べ人数を見ると、特別区・政令市では 101 人以上が 87.8% と大半を占め、町では 11~50 人が多く村では 10 人未満が多くなっていた (表 15)。また、市町村別の平均参加延べ人数は、特別区・政令市 596.6 人 (±827.9)、市 269.2 人 (±289.0)、町 64.1 人 (±69.1)、村 38.1 人 (±49.8) であり、特別区・政令市は市、町、村に比べて有意に人数が多く、市も町、村に比べて有意に多く、町は村に比べて有意に多かった。

<表15>市町村別母親教室母親参加延べ人数 (不明除く)

	特別区・政令市	市	町	村	合計
10人未満	1 (1.1)	7 (2.5)	24(11.8)	7(33.3)	39(6.6)
11~50人	6 (6.7)	44(15.7)	96(47.3)	9(42.9)	155(26.1)
51~100人	4 (4.4)	41(14.6)	42(20.7)	1 (4.8)	88(14.8)
101人以上	79(87.8)	188(67.1)	41(20.2)	4(19.0)	312(52.5)
合計	90(100.0)	280(100.0)	203(100.0)	21(100.0)	594(100.0)
平均値	596.6111	269.2294	64.1232	38.0952	239.9481
標準偏差	827.8690	288.9951	69.0903	49.7553	418.0414
最小値	5	5	2	1	1
最大値	6469	1689	395	176	6469
t 検定	∇ p < 0.001 ∇ ∇ p < 0.001 ∇ ∇ p < 0.001 ∇ ∇ p < 0.001 ∇ ∇ p < 0.001 ∇ ∇ p < 0.05 ∇				

⑤夜間・土日開催

母親教室を土日に開催しているのは 71 カ所 (11.5%) であり、特別区・政令市は 5 カ所 (5.6%) と少なかったが有意ではなかった (表 16)。

夜間の開催は土日の開催より少なく 23 カ所 (3.9%) が実施しているにすぎなかった (表 17)。

<表16>市町村別母親教室土日開催有無 (不明除く)

	特別区・政令市	市	町	村	合計
あり	5 (5.6)	34(11.8)	30(13.6)	2(10.0)	71(11.5)
なし	85(94.4)	253(88.2)	191(86.4)	18(90.0)	547(88.5)
合計	90(100.0)	287(100.0)	221(100.0)	20(100.0)	618(100.0)

<表17>市町村別母親教室夜間開催有無（不明除く）

	特別区・政令市	市	町	村	合計
あり	-	8(2.9)	14(6.9)	1(4.8)	23(3.9)
なし	85(100.0)	268(97.1)	189(93.1)	20(95.2)	562(96.1)
合計	85(100.0)	276(100.0)	203(100.0)	21(100.0)	585(100.0)

(2) 両親教室の実施状況

①実施の有無

平成16年度の両親が主体の教室（以下、「両親教室」とする。）は、1165カ所の保健センターのうち617カ所（53.0%）で実施されていたが548カ所（47.0%）は未実施であった。保健センターの設置主体と実施状況をみると、特別区・政令市及び市は実施がそれぞれ75.8%、63.2%と有意に高く、町は41.0%、村は26.7%と有意に低かった（表18）。母親教室と比べて実施率に違いはほとんどみられなかった。

<表18>市町村別両親教室の実施状況（不明除く）

	特別区・政令市**	市**	町**	村**	合計
実施	97(75.8)	299(63.2)	197(41.0)	20(26.7)	613(53.0)
未実施	31(24.2)	174(36.8)	283(59.0)	55(73.3)	543(47.0)
合計	128(100.0)	473(100.0)	480(100.0)	75(100.0)	1156(100.0)

** p < 0.01

②名称

両親教室の名称は「両親教室」や「パパママ教室」などが多かった。よくつけられていた名称を除いた教室名の一部を表19に示す。母親教室と同様に参加者を引きつけるような名称をつけている様子が見られる。

③実施回数

両親教室の1コースあたりの回数は、最小1回から最大12回（平均1.9±1.3）で、1～2回のコースで実施している市町村が418カ所（67.7%）ともっとも多かった（表20）。これは母親教室が3～5回が多いのに比べると少なく、両親が参加しやすい日時の設定による影響が考えられた。年間何コース実施しているかをたずねたところ、最小1コースから最大129コース（平均5.2±7.0）で、4～7コースが255カ所（41.3%）ともっとも多く、これは母親教室と同程度であった（表21）。

地域保健・老人保健事業報告で国に報告している回数は年間開催延べ回数であるので、1コースあたりの開催回数と年間コース数から年間開催延べ回数を算出した。中には複数の教室の回答があり、この数式では年間開催延べ回数を完全に把握できるわけではない。開催最小回数は1回から最大回数129回（平均10.1±12.5）で、1～5回が254カ所（41.2%）ともっとも多かった（表22）。平均17.4回である母親教室に比べて開催回数が少なかった。

市町村別にみると、特別区・政令市、市、町、村とも1～5回がもっとも多く、母親教室に比べて少なかった（表23）。また、市町村別の平均開催回数は、特別区・政令市11.8回（±17.7）、市12.0回（±13.9）、町6.7回（±4.9）、村7.3回（±4.9）であり、特別区・政令市は町に比べて有意に回数が多く、市も町に比べて有意に多かった。

<表19>両親教室やパパママ教室等以外の両親教室の名称の例

両親教室の名称（保健センター設置主体）	両親教室の名称（保健センター設置主体）
こんにちは赤ちゃん教室（町）	ハッピーライフ パパママスクール（町）
これからママ・パパの集い（市）	プレママパパのためのおふろの入浴教室（市）
はぐくみ教室（町）	良親教室（町）
パパママ講座ひよこコース（市）	HAPPYマタニティ（市）
プレパパプレママにこここ教室（市）	家族でわいわいみんなで子育て教室（町）
ファミリークラス（市）	タマゴクラス（町）
パパも一緒に子育て講座（町）	ファミリー教室（市）
パパママ準備スクール（市）	お父さんのためのドキドキ体験講座（町）
パパとママの赤ちゃん学教室（町）	ウェルカムベビースクール（町）
パパママフェスタ（町）	おやママパパ講座（市）
すくすく子育て教室（市）	ペアマタニティルーム（市）
かるがも教室（町）	プレパパママの子育てスクール（市）
あったかファミリーレッスン（町）	すこやかファミリー教室（市）
パパママ体験クラス（市）	Welcome!赤ちゃん（市）
すてきなパパとママの教室（市）	たまごの会（村）
パパママ教室ぷくぷく（市）	妊婦・夫（にんぷつぶ）教室（市）
お父さんのための赤ちゃん講座（市）	ウェルカムBaby（市）
ペア学級（市）	ちょっと子育て体験の日（市）
デリバリーパパママ学級（町）	ファミリークラス（町）
パパママステップ（村）	すこやか教室（町）
かんがるーくらぶ（子育て教室）（町）	ひかりクラス（市）
たんぼぼクラス（市）	はじめてのママパパ教室（市）
フレッシュパパママ学級（市）	新米パパ☆ママ教室（市）
こうのとりの学級（町）	すこやかセミナー（市）
母親父親になるための準備教室（特別区・政令市）	ファミリー学級（特別区・政令市）
体験パパクラブ（市）	ペンギンクラス（市）
子育て体験教室（市）	プレパパママスクール（特別区・政令市）
マタニティ応援教室（市）	ゆりかご（町）
パパとママの子育て学級（市）	ママパパ喫茶室（町）
家族で子育て講座（市）	たまご学級（市）
日曜パパとママのたまご学級（町）	フレッシュパパ&ママの集い（町）
プレママカフェ（町）	初めての子育て教室（市）
ペアコース（市）	ペンギン学級（町）
ニューファミリーセミナー（市）	もうすぐパパママ教室（町）
パタパタママ教室（特別区・政令市）	ペアレンツクラブ（市）

<表20> 両親教室1コースあたり回数

	保健センター数	%
1～2回	418	67.7
3～5回	165	26.7
6～7回	5	0.8
8回以上	1	0.2
不明	28	4.5
合計	617	100

<表21> 両親教室年間開催コース数

	保健センター数	%
1～3コース	250	40.5
4～7コース	255	41.3
8～11コース	27	4.4
12コース以上	54	8.8
不明	31	5.0
合計	617	100

<表22> 両親教室年間開催延べ回数

	保健センター数	%
1～5回	254	41.2
6～10回	148	24.0
11～20回	124	20.1
21回以上	58	9.4
不明	33	5.3
合計	617	100

<表23> 市町村別両親教室年間開催延べ回数（不明除く）

	特別区・政令市	市	町	村	合計
1～5回	44(49.4)	102(35.9)	99(52.9)	7(35.0)	252(43.4)
6～10回	20(22.5)	75(26.4)	43(23.0)	8(40.0)	146(25.2)
11～20回	11(12.4)	63(22.2)	45(24.1)	5(25.0)	124(21.4)
21回以上	14(15.7)	44(15.5)	-	-	58(10.0)
合計	89(100.0)	284(100.0)	187(100.0)	20(100.0)	580(100.0)
平均値	11.7528	12.0106	6.6845	7.3000	10.0582
標準偏差	17.7266	13.8665	4.9342	4.9322	12.4787
最小値	1	1	1	1	1
最大値	129	114	20	18	129
t検定	▽	p < 0.001	▽		
		▽	p < 0.001	▽	

④参加組数

両親教室の実参加者は父と母で1組として、最少は0組で最大が1830組（平均72.8±145.1）、参加延べ組数は最小0組から最大2133組（平均93.5±184.9）であり、0組を除き延べ組数を実組数で割った一組あたりの平均参加回数は、最小1回から最大9回（平均1.3回±0.7回）であった。母親教室の平均参加回数に比べて少なかった。両親対象の教室としていても、実質父親の参加がみられなかったところもみられた。

両親教室ではあるが母親のみの参加が344カ所（55.8%）にあり、母親の参加実人数は最小が1人で最大は754人（平均30.5±72.3）であった。

また、母親や父親以外の参加者は239カ所（38.7%）にあった。

市町村別に両親の参加延べ組数を見ると、特別区・政令市は101組以上が48.9%と多く、町は11～50組が48.5%、村は10組未満が56.3%と多くなっていた（表24）。また、市町村ごとの平均参加延べ組数は、特別区・政令市181.5組（±340.6）、市112.5組（±156.3）、町24.8組（±30.9）、村16.9組（±20.3）であり、特別区・政令市は市、町、村に比べて有意に組数が多く、市も町、村に比べて有意に多く、町は村に比べて有意に多かった。

<表24>市町村別両親教室両親参加延べ組数（不明除く）

	特別区・政令市	市	町	村	合計
10組未満	-	14(5.3)	64(38.8)	9(56.3)	87(16.3)
11～50組	24(27.3)	78(29.4)	80(48.5)	6(37.5)	188(35.2)
51～100組	21(23.9)	87(32.8)	16(9.7)	1(6.3)	125(23.4)
101組以上	43(48.9)	86(32.5)	5(3.0)	-	134(25.1)
合計	88(100.0)	265(100.0)	165(100.0)	16(100.0)	534(100.0)
平均値	181.4886	112.4549	24.8303	16.9375	93.51391466
標準偏差	340.5592	156.3123	30.9487	20.2829	184.9130442
最小値	11	3	0	3	0
最大値	2133	1567	258	82	2133
t 検定	∇ $p < 0.001$ ∇ ∇ $p < 0.001$ ∇ ∇ $p < 0.05$ ∇ ∇ $p < 0.001$ ∇ ∇ $p < 0.001$ ∇ ∇ $p < 0.05$ ∇				

⑤夜間・土日開催

両親教室を土日に開催しているのは385カ所（66.5%）であり、母親教室の71カ所（11.5%）に比べて有意（ $p < 0.001$ ）に多くなっていた。市町村別では村が14カ所（73.7%）と土日開催がやや多くなっていたが有意ではなかった（表25）。

夜間に開催しているのは101カ所（18.6%）であり、母親教室の23カ所（3.9%）に比べて有意（ $p < 0.001$ ）に多くなっていた。市町村別では村が4カ所（23.5%）と夜間開催がやや多くなっていたが有意ではなかった（表26）。

母親に比べ働いていることが多い父親が教室に参加できるよう、配慮していることがうかがわれた。

<表25>市町村別両親教室土日開催有無（不明除く）

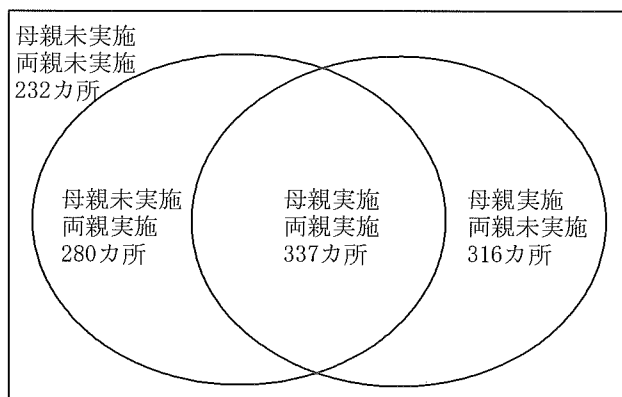
	特別区・政令市	市	町	村	合計
あり	58(65.2)	200(69.2)	113(62.1)	14(73.7)	385(66.5)
なし	31(34.8)	89(30.8)	69(37.9)	5(26.3)	194(33.5)
合計	89(100.0)	289(100.0)	182(100.0)	19(100.0)	579(100.0)

<表26>市町村別両親教室夜間開催有無（不明除く）

	特別区・政令市	市	町	村	合計
あり	13(15.1)	49(18.2)	35(20.6)	4(23.5)	101(18.6)
なし	73(84.9)	220(81.8)	135(79.4)	13(76.5)	441(81.4)
合計	86(100.0)	269(100.0)	170(100.0)	17(100.0)	542(100.0)

(3) 母親教室及び両親教室の実施状況

<図3> 母親教室及び両親教室の実施状況

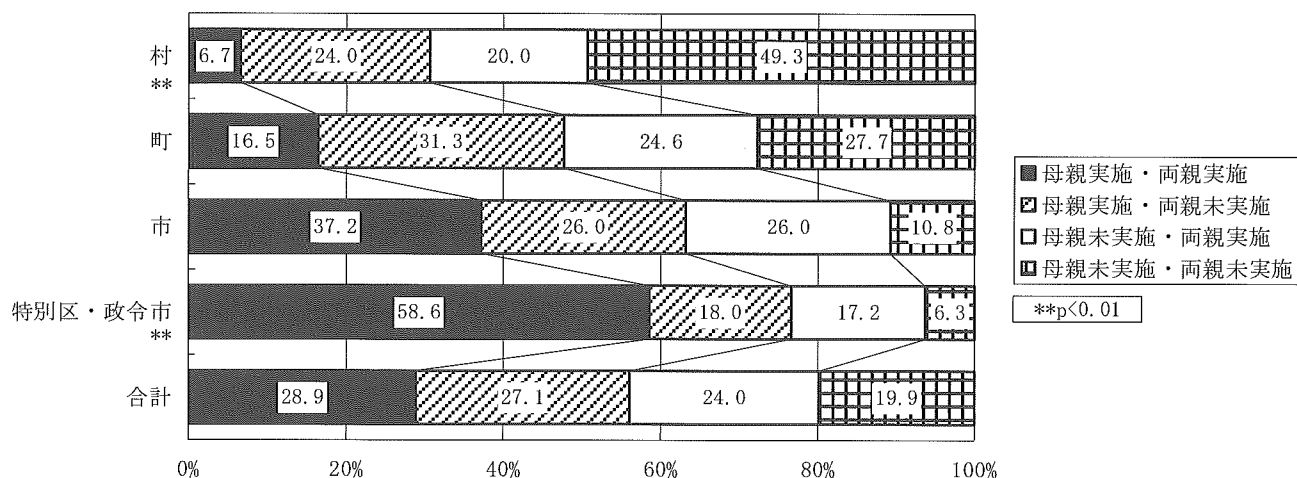


1165カ所の市町村の母親教室及び両親教室の実施状況を図3に示す。

両方の教室を実施しているのは337カ所(28.9%)、両方とも実施していないのは232カ所(19.9%)であった。

市町村別に実施状況をみると、特別区・政令市では両方の教室を実施しているのが75カ所(58.6%)と有意($p < 0.01$)に多く、村では5カ所(6.7%)と有意に少なかった(図4)。

<図4> 市町村別母親教室及び両親教室の実施状況



(4) 教室の対象者

母親教室の対象者を初産婦に限定しているかどうかたずねたところ、限定しているところは90カ所(13.3%)と少なかった(表27)。特別区・政令市では30.6%が限定しており有意($p < 0.01$)に多く、町は3.5%と有意($p < 0.01$)に少なかった。村では初産婦に限定しているのは1カ所の4.3%に過ぎなかった。

参加する時期(妊娠週数)については、237カ所(36.3%)が取り決めており、市町村別にみると特別区・政令市では50.0%が取り決めており有意($p < 0.01$)に多く、市も有意に多く町は有意($p < 0.01$)に少なかった。

両親教室では、対象者を初産婦に限定しているのは141カ所(22.9%)で、特別区・政令市では43.9%が限定し有意($p < 0.01$)に多く、市も有意に多く、町は7.0%と有意($p < 0.01$)に少なかった(表28)。村では0%であった。

参加する時期を決めているのは217カ所(33.4%)と、7割以上が時期を限定していなかった。市が有意に多く町では有意に少なかった。

人口の多いところでは初産婦に限定しているところが多く、参加時期も取り決めていところが多かった。

<表27>市町村別母親教室の対象者（不明除く）

	特別区・政令市 N=98	市 N=299	町 N=229	村 N=23	合計 N=649
初産婦限定あり	30(30.6)**	51(17.1)*	8(3.5)**	1(4.3)	90(13.8)
参加時期取り決めあり	49(50.0)**	122(40.8)*	60(26.2)**	6(26.1)	237(36.3)

** p < 0.01 * p < 0.05

<表28>市町村別両親教室の対象者（不明除く）

	特別区・政令市 N=98	市 N=299	町 N=229	村 N=23	合計 N=649
初産婦限定あり	43(43.9)**	82(27.4)**	16(7.0)**	-*	141(21.7)
参加時期取り決めあり	43(43.9)*	124(41.5)**	43(18.8)**	7(30.4)	217(33.4)

** p < 0.01 * p < 0.05

(5) 参加経路

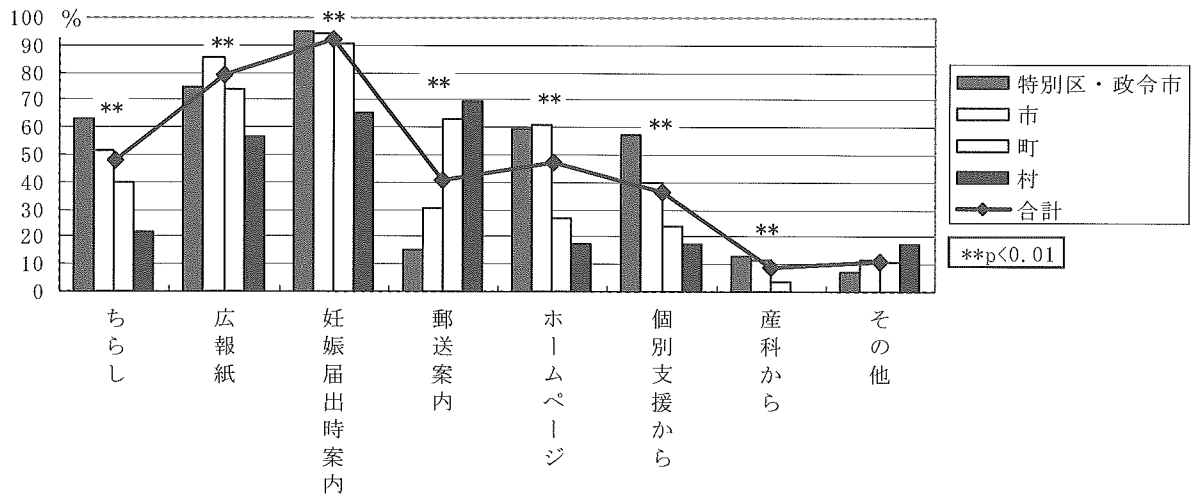
もっとも多いのは母親教室、両親教室とも妊娠届時案内が90%以上と多く、次いで広報誌が8割弱、ホームページ、ちらし、郵送案内であった（表29～30）。母親教室に比べ両親教室はややホームページが多くなっていたが有意ではなかった。母親教室では、特別区・政令市は有意（p < 0.01）にちらしやホームページ、個別支援からが多く郵送が少なく、市は同様にホームページが多く郵送が少なく、町や村は郵送案内が多く、ちらしや個別支援からが少なかった（図5）。村はまた妊娠届出時案内が少なかった。市町村別の状況は両親教室でも同様であった（図6）。

その他の参加経路として、「母子保健推進員が案内」「無線」「産科、歯科、医院、病院にポスター掲示」「電話による勧奨」「有線」「有線テレビ」「FAX」「健康だより」「愛育会会員による戸別訪問」「口コミ」「ケーブルテレビ」「地元新聞」などがあげられていた。

<表29>市町村別母親教室への参加経路（不明除く）

	特別区・政令市	市	町	村	合計
ちらし	62(63.3)	153(51.3)	90(39.5)	5(21.7)	310(47.9)
広報紙	73(74.5)	255(85.6)	169(74.1)	13(56.5)	510(78.8)
妊娠届出時案内	93(94.9)	281(94.3)	206(90.4)	15(65.2)	595(92.0)
郵送案内	15(15.3)	90(30.2)	143(62.7)	16(69.6)	264(40.8)
ホームページ	58(59.2)	181(60.7)	61(26.8)	4(17.4)	304(47.0)
個別支援から	56(57.1)	118(39.6)	54(23.7)	4(17.4)	232(35.9)
産科から	13(13.3)	35(11.7)	9(3.9)	-	57(8.8)
その他	7(7.1)	34(11.4)	25(11.0)	4(17.4)	70(10.8)
合計	98(100.0)	298(100.0)	228(100.0)	23(100.0)	647(100.0)

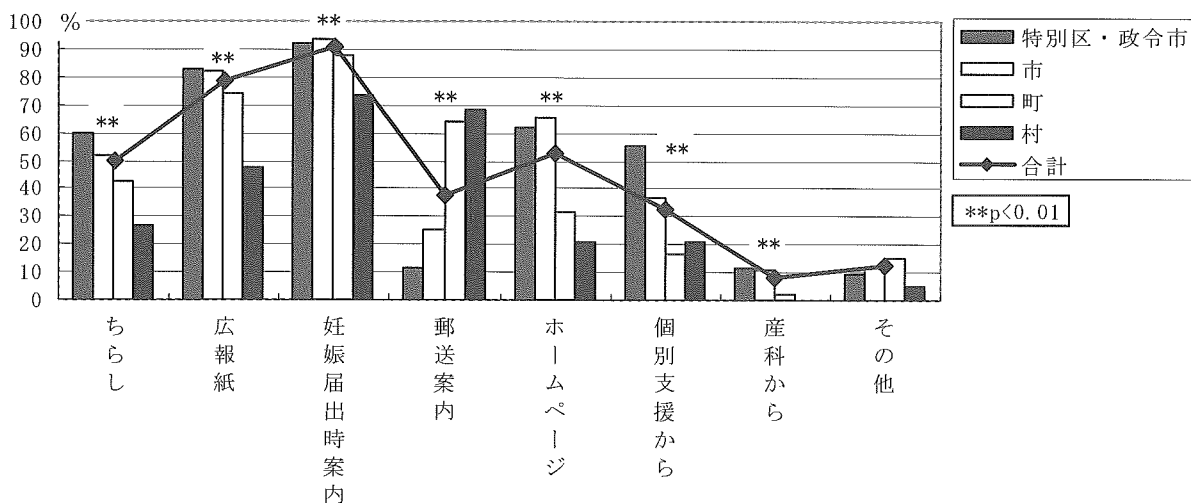
<図5>市町村別母親教室への参加経路



<表30>市町村別両親教室への参加経路（不明除く）

	特別区・政令市	市	町	村	合計
ちらし	58 (59.8)	153 (52.0)	84 (42.6)	5 (26.3)	300 (49.4)
広報紙	80 (82.5)	241 (82.0)	146 (74.1)	9 (47.4)	476 (78.4)
妊娠届出時案内	89 (91.8)	275 (93.5)	173 (87.8)	14 (73.7)	551 (90.8)
郵送案内	11 (11.3)	75 (25.5)	126 (64.0)	13 (68.4)	225 (37.1)
ホームページ	60 (61.9)	192 (65.3)	62 (31.5)	4 (21.1)	318 (52.4)
個別支援から	54 (55.7)	107 (36.4)	33 (16.8)	4 (21.1)	198 (32.6)
産科から	11 (11.3)	31 (10.5)	4 (2.0)	-	46 (7.6)
その他	9 (9.3)	34 (11.6)	30 (15.2)	1 (5.3)	74 (12.2)
合計	97 (100.0)	294 (100.0)	197 (100.0)	19 (100.0)	607 (100.0)

<図6>市町村別両親教室への参加経路



(6) 教室の目的

①母親教室

母親教室の目的は、もっとも多いのは「妊婦同士交流仲間づくり」で577カ所(90.9%)があげており、そのほか「適切な栄養摂取」が574カ所(90.4%)、「お産理解、スムーズな分娩」が529カ所(83.4%)と多かった(表31)。2割以下と少なかったのは「児事故防止」「安定家族重要性理解」「子ども虐待予防」「親自尊心高める」であった。

市町村別に見ると、「お産理解、スムーズな分娩」が有意($p < 0.05$)に村に少なく、同様に「産褥の理解」が町に少なく、「新生児生理理解」が特別区・政令市で67.7%と多く村では半分以下の31.8%と少なく($p < 0.01$)、「新生児ケア習得」が村に少なく、「児発達遊ばせ方理解」が特別区・政令市で35.4%であったが村では9.1%と少なかった($p < 0.01$)

(図7-1~2)。その他にも特別区・政令市では「児事故防止」「安定家族重要性理解」「産後うつ病予防等メンタルヘルス」「歯の健康」「子育て資源知識」「相談機関知識」「保健サービス知識」「親自尊心高める」が有意に多かった。

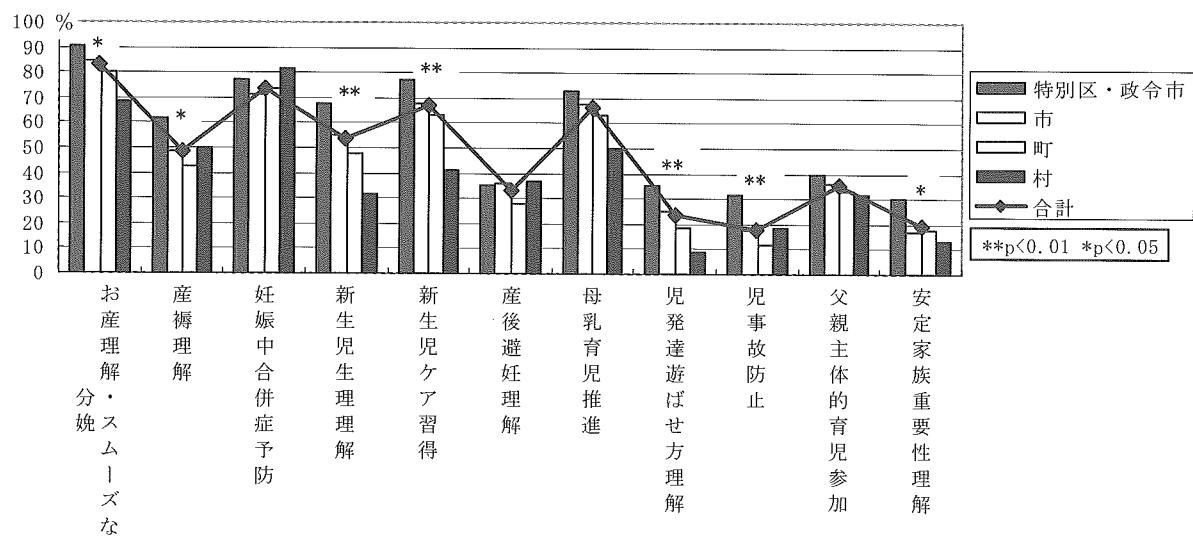
特別区・政令市では人口が多く孤立した子育てなどの問題も多く、母親教室で子育て支援のメッセージが多く発せられているといえる。

その他の目的として、内容についてのものも多かったが、インストラクターや健康運動指導士によるマタニティビクスやマタニティヨガ、保健師による禁煙教育、図書館職員などによる絵本の読み聞かせ、骨密度測定、父親・母親参加者同士の交流会などがあげられていた。

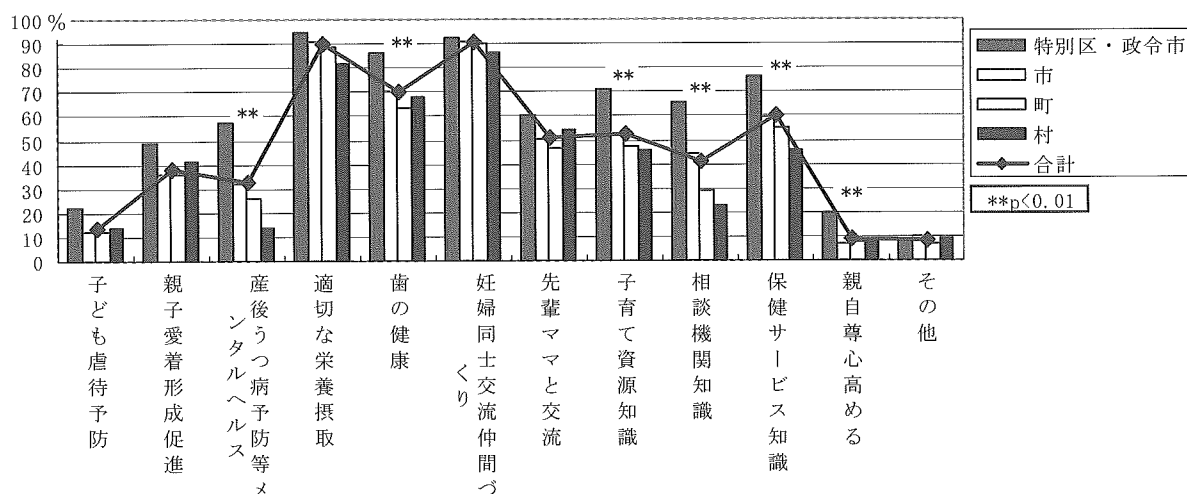
<表31>市町村別母親教室の目的（不明除く）

	特別区・政令市	市	町	村	合計
お産理解・スムーズな分娩	87(90.6)	247(84.6)	180(80.0)	15(68.2)	529(83.3)
産褥理解	59(61.5)	142(48.6)	96(42.7)	11(50.0)	308(48.5)
妊娠中合併症予防	74(77.1)	209(71.6)	166(73.8)	18(81.8)	467(73.5)
新生児生理解	65(67.7)	162(55.5)	108(48.0)	7(31.8)	342(53.9)
新生児ケア習得	74(77.1)	198(67.8)	142(63.1)	9(40.9)	423(66.6)
産後避妊理解	34(35.4)	105(36.0)	62(27.6)	8(36.4)	209(32.9)
母乳育児推進	70(72.9)	197(67.5)	142(63.1)	11(50.0)	420(66.1)
児発達遊ばせ方理解	34(35.4)	72(24.7)	41(18.2)	2(9.1)	149(23.5)
児事故防止	30(31.3)	52(17.8)	27(12.0)	4(18.2)	113(17.8)
父親主体的育児参加	38(39.6)	105(36.0)	75(33.3)	7(31.8)	225(35.4)
安定家族重要性理解	29(30.2)	49(16.8)	39(17.3)	3(13.6)	120(18.9)
子ども虐待予防	21(21.9)	36(12.3)	28(12.4)	3(13.6)	88(13.9)
親子愛着形成促進	47(49.0)	104(35.6)	81(36.0)	9(40.9)	241(38.0)
産後うつ病予防等メンタルヘルス	55(57.3)	94(32.2)	58(25.8)	3(13.6)	210(33.1)
適切な栄養摂取	91(94.8)	266(91.1)	199(88.4)	18(81.8)	574(90.4)
歯の健康	83(86.5)	205(70.2)	143(63.6)	15(68.2)	446(70.2)
妊婦同士交流仲間づくり	89(92.7)	266(91.1)	203(90.2)	19(86.4)	577(90.9)
先輩ママと交流	58(60.4)	148(50.7)	105(46.7)	12(54.5)	323(50.9)
子育て資源知識	68(70.8)	151(51.7)	106(47.1)	10(45.5)	335(52.8)
相談機関知識	63(65.6)	130(44.5)	65(28.9)	5(22.7)	263(41.4)
保健サービス知識	73(76.0)	175(59.9)	124(55.1)	10(45.5)	382(60.2)
親自尊心高める	19(19.8)	20(6.8)	18(8.0)	2(9.1)	59(9.3)
その他	8(8.3)	28(9.6)	15(6.7)	2(9.1)	53(8.3)
合計	96(100.0)	292(100.0)	225(100.0)	22(100.0)	635(100.0)

<図7-1>市町村別母親教室の目的①



<図 7-2> 市町村別母親教室の目的②



②両親教室

両親教室の目的は、もっとも多いのは「新生児ケア習得」で457カ所（86.6%）があげており、そのほか「父親主体的育児参加」も451カ所（85.4%）と多かった（表32）。父親が参加することから、新生児の沐浴実習などが行われていると考えられる。

2割以下と少なかったのは「児事故防止」「子ども虐待予防」「親自尊心高める」であった。

市町村別に見ると、「お産理解、スムーズな分娩」が村で88.9%と多かったが特別区・政令市では39.2%と有意（ $p < 0.01$ ）に少なく、「妊娠中合併症予防」も村で66.7%であったが特別区・政令市では半分以下の27.8%と有意に少なかった。村ではそのほか、「適切な栄養摂取」「歯の健康」が有意に多く、両親教室ではあるが母親向けの内容を多く取り入れていると言える（図8-1～2）。特別区・政令市では「父親主体的育児参加」を93.7%とほとんどが目的としているほか、「安定家族重要性理解」「相談機関知識」を町村より多く目的としていた。

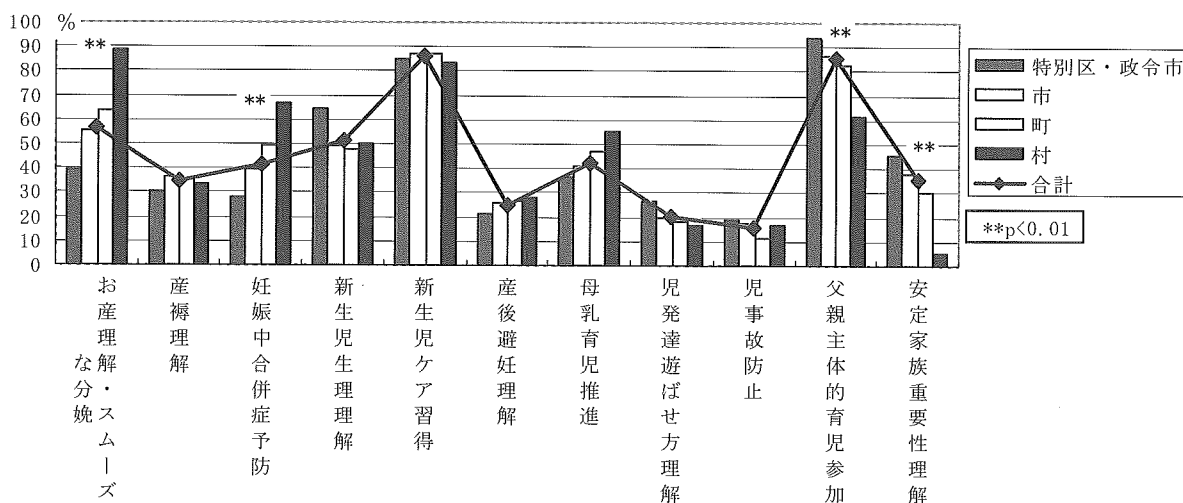
町村は対象人口が少ないことから、父親も参加できる両親教室として実施しているが母親に向けた内容を多く取り入れ、特別区・政令市では両親教室をより父親や家族に視点においた内容で実施しているといえよう。

その他の目的として、内容についてのもも多かったが、妊婦疑似体験をあげているところが多く、そのほか、母親教室と同様にインストラクターや健康運動指導士によるマタニティビクスやマタニティヨガ、保健師等による禁煙教育、ボランティアなどによる絵本の読み聞かせ、両親同士の交流会などがあげられていた。また、チャイルドシートの必要性と取り付け方を実施しているところや、教員が「父親の主体的育児参加」「安定した家族の重要性」「親と子どもの愛着形成の促進」を担当しているところもあった。

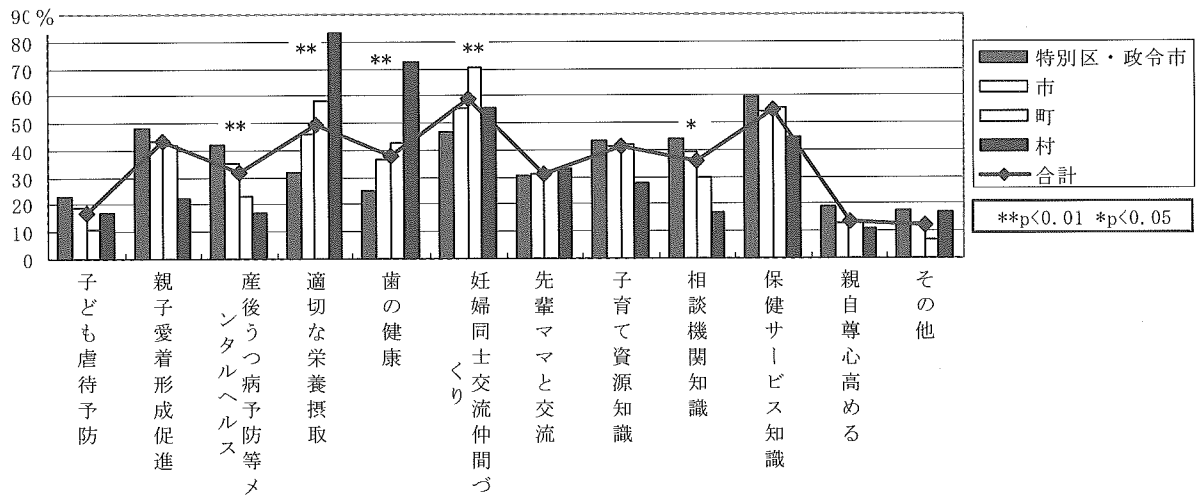
<表32>市町村別両親教室の目的（不明除く）

	特別区・政令市	市	町	村	合計
お産理解・スムーズな分娩	31(39.2)	143(55.0)	109(63.7)	16(88.9)	299(56.6)
産褥理解	24(30.4)	94(36.2)	61(35.7)	6(33.3)	185(35.0)
妊娠中合併症予防	22(27.8)	102(39.2)	84(49.1)	12(66.7)	220(41.7)
新生児生理解	51(64.6)	129(49.6)	82(48.0)	9(50.0)	271(51.3)
新生児ケア習得	67(84.8)	226(86.9)	149(87.1)	15(83.3)	457(86.6)
産後避妊理解	17(21.5)	66(25.4)	45(26.3)	5(27.8)	133(25.2)
母乳育児推進	29(36.7)	107(41.2)	80(46.8)	10(55.6)	226(42.8)
児発達遊ばせ方理解	21(26.6)	52(20.0)	31(18.1)	3(16.7)	107(20.3)
児事故防止	15(19.0)	46(17.7)	19(11.1)	3(16.7)	83(15.7)
父親主体的育児参加	74(93.7)	225(86.5)	141(82.5)	11(61.1)	451(85.4)
安定家族重要性理解	36(45.6)	99(38.1)	52(30.4)	1(5.6)	188(35.6)
子ども虐待予防	18(22.8)	50(19.2)	18(10.5)	3(16.7)	89(16.9)
親子愛着形成促進	38(48.1)	113(43.5)	72(42.1)	4(22.2)	227(43.0)
産後うつ病予防等メンタルヘルス	33(41.8)	92(35.4)	39(22.8)	3(16.7)	167(31.6)
適切な栄養摂取	25(31.6)	120(46.2)	100(58.5)	15(83.3)	260(49.2)
歯の健康	20(25.3)	95(36.5)	73(42.7)	13(72.2)	201(38.1)
妊婦同士交流仲間づくり	37(46.8)	145(55.8)	120(70.2)	10(55.6)	312(59.1)
先輩ママと交流	24(30.4)	81(31.2)	55(32.2)	6(33.3)	166(31.4)
子育て資源知識	34(43.0)	107(41.2)	72(42.1)	5(27.8)	218(41.3)
相談機関知識	35(44.3)	102(39.2)	51(29.8)	3(16.7)	191(36.2)
保健サービス知識	47(59.5)	141(54.2)	95(55.6)	8(44.4)	291(55.1)
親自尊心高める	15(19.0)	33(12.7)	23(13.5)	2(11.1)	73(13.8)
その他	14(17.7)	34(13.1)	12(7.0)	3(16.7)	63(11.9)
合計	79(100.0)	260(100.0)	171(100.0)	18(100.0)	528(100.0)

<図8-1>市町村別両親教室の目的①



<図 8-2> 市町村別両親教室の目的②

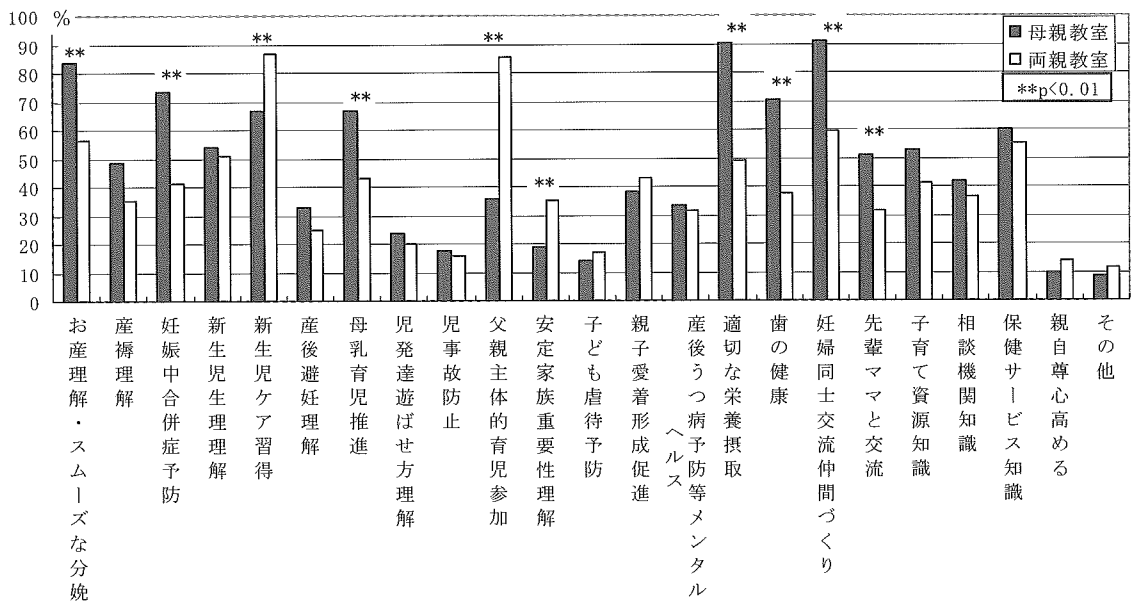


③母親教室と両親教室の目的の比較

母親教室で両親教室より有意 ($p < 0.01$) に多く目的とされていたのは、「お産理解・スムーズな分娩」「妊娠中合併症予防」「母乳育児推進」「適切な栄養摂取」「歯の健康」「妊婦同士交流仲間づくり」「先輩ママと交流」で、特に「適切な栄養摂取」と「歯の健康」は両親教室の約2倍であった(図9)。

両親教室で有意 ($p < 0.01$) に多く目的とされていたのは、「新生児ケア習得」「父親主体的育児参加」であった。特に「父親主体的育児参加」は母親教室の約2.5倍であり、両親教室の中核をなす部分とされていた。「新生児ケア習得」では父親にも人気がある沐浴の実習などが行われていると考えられる。

<図 9> 母親教室と両親教室の目的



(7) 教室担当職種

①母親教室

母親教室の目的別に担当している職種をたずねた。保健師が多く占めていたのは「新生児生理理解」「新生児ケア習得」「児発達遊ばせ方理解」「不慮の事故防止」「父親主体的育児参加」「安定家族重要性理解」「子ども虐待予防」「親子愛着形成促進」「産後うつ病予防等メンタルヘルス」「妊婦同士交流仲間づくり」「先輩ママと交流」「子育て資源知識」「相談機関知識」「保健サービス知識」「親自尊心高める」と、目的ほとんどであった(表33)。

助産師が多いのは、「お産理解・スムーズな分娩」「産褥理解」「妊娠中合併症予防」「母乳育児推進」と分娩や母乳に関する内容であり、「産後避妊理解」は保健師と助産師が同程度であった。「適切な栄養摂取」は栄養士が、「歯の健康」は歯科衛生士が多く担当していた。医師は「妊娠中合併症予防」で15.7%担当しているのがもっとも多く、歯科医師は「歯の健康」で35.8%担当していた。

心理職は、「児発達遊ばせ方理解」「児事故防止」「父親主体的育児参加」「安定家族重要性理解」「子ども虐待予防」「親子愛着形成促進」「産後うつ病予防等メンタルヘルス」に関わっていた。

<表33>母親教室の目的と担当職種

①お産理解等 N=533			②産褥理解 N=311			③妊娠中合併症予防 N=470		
	保健センター数	%		保健センター数	%		保健センター数	%
助産師	367	68.9	助産師	206	66.2	保健師	280	59.6
保健師	256	48.0	保健師	156	50.2	助産師	213	45.3
医師	46	8.6	医師	22	7.1	栄養士	78	16.6
栄養士	6	1.1	栄養士	2	0.6	医師	74	15.7
その他	3	1.5	その他	1	0.3	その他	6	1.3
④新生児生理理解 N=345			⑤新生児ケア習得 N=427			⑥産後避妊理解 N=211		
	保健センター数	%		保健センター数	%		保健センター数	%
保健師	298	86.4	保健師	363	85.0	保健師	118	55.9
助産師	107	31.0	助産師	175	41.0	助産師	113	53.6
医師	6	1.7	看護師	9	2.1	医師	6	2.8
栄養士	2	0.6	栄養士	4	0.9	歯科衛生士	1	0.5
その他	1	0.3	その他	3	0.7	その他	1	0.5
⑦母乳育児推進 N=424			⑧児発達等理解 N=150			⑨児事故防止 N=113		
	保健センター数	%		保健センター数	%		保健センター数	%
助産師	282	66.5	保健師	134	89.3	保健師	104	92.0
保健師	246	58.0	助産師	14	9.3	助産師	12	10.6
栄養士	25	5.9	心理職	7	4.7	医師	4	3.5
医師	2	0.5	医師	3	2.0	心理職	1	0.9
その他	2	0.7	その他	18	12.0	その他	11	9.7